

# 着物お洒落プロジェクト ～豊かな心と文化をつくる

## 1 目的・概要

本プロジェクトでは、長い年月の中で築かれてきた着物の文化を伝承し、感性を養いながら学びの中で気付いた魅力を発信することを目的としています。

着物は日本の伝統と文化の象徴の一つであり、京都を中心に流行を生み出してきたファッションです。友禅染や西陣織の生産地でもあり着物に縁あるここ京都で、歴史ある日本独自の装いの文化を広め伝えていくために、着物の魅力に魅せられたメンバーが集まって活動を行ないました。

私達は、格式が高いと敬遠されがちな着物に親しみを持ってもらい、気軽に「着てみたい」と思わせるために、着物の基礎知識を学び、そこから見えてきた問題点を解決できるような企画を立案してきました。具体的に春学期には導入として、着物の中でも比較的馴染みのある浴衣に着目し「同志社ゆかたデー」と題し、浴衣の魅力を体感してもらうイベントを実施しました。秋学期は春の経験を踏まえ、ポスターセッション形式で着物の魅力を「創る」「環境」「着る」の3つの柱で紹介する「大学生のための着物イベント」を開催しました。



### Annual Schedule

2016年	4月	活動の方針決め
	5月	各班に分かれて調査・報告（色柄・流通班、意識調査班、京都と浴衣班、サービス・観光班、宣伝班）
	6月	江湖館にて浴衣実習 イベントに向けての準備
	7月	学内イベント「同志社ゆかたデー」実施 イベントに関する反省、今後の方針決め
	10月	各班に分かれて調査・報告（創る班、環境班、着る班、イベント班）
	11月	各班に分かれて調査・報告 イベントに向けての準備
	12月	学内イベント「大学生のための着物イベント～着物ってええんやで～」実施



## 2 成果達成度

### 【春学期】

まず私たちは、着物の中でも一番親しみがある夏の装い、浴衣をテーマに活動を行いました。第1段階ではメンバー自身が知識を深めるために5つのテーマを設定して浴衣について多角的に調査・考察をし、第2段階では浴衣実習を通じて実際に着方や作法を学ぶことでその魅力を探りました。第1段階で大学生を対象に行なった浴衣に対する意識調査により、「着方が分からない」「周りに着る仲間がいない」「機会がない」ことが浴衣を着ない大きな理由であり解決すべき課題であることが見えてきました。また、第2段階の実習を通してメンバーが感じた「意外と着るのが簡単」、「着ると身が引き締まり、立ち居振る舞いや気持ちが変わる」といった浴衣の魅力も踏まえて、実際に着ることで分かる良さを知ってもらいたいと考え企画したのが「同志社ゆかたデー」です。

祇園祭の時期に合わせて開催したこの企画は“着方を知って仲間と共に参加できる学内イベント”をコンセプトにしており、メンバーが参加者に浴衣の着方レッスンを行ない、調査や実習で得た知識をふんだんに盛り込んだリーフレットを作成・配布しました。2日間の開催で参加者は100人を超え、多数の留学生の参加もありました。参加者に実施したアンケートでは気持ちや立ち居振る舞いの変化を感じたという回答が得られたので、浴衣の魅力を発信するという目的が達成されたと考えています。



### 【秋学期】

秋学期は着物全体に目を向け、着物の制作工程・格・TPO に合わせたスタイリングなどを学びました。その中で私たちは、創る人と着る人の双方が存在することで着物文化が継承され、着物産業へ貢献されて現代においても着物が息づいているのだと気付かされました。また、着物を着ると身が引き締まる心持がしたり、多くの人手と時間をかけて生み出されたことを知ると愛着が湧き大切に扱おうと思ったりと、人の気持ちを変える力が着物にはあると考え、これらをイベントを考えるための軸にしました。

12月末の3日間に学内で行なった「大学生のための着物イベント～着物ってええんやで～」では、「創る」「環境」「着る」の3つの柱を設定しポスターセッション形式で着物の魅力を発信しました。

「創る」班では実際に京友禅の着物をつくる人間国宝の方の工房を訪れ取材した内容をもとに、伝統技法や現在の取り組みなどを京友禅の着物の実物や図録を用いながら紹介しました。「環境」班はTPO に合わせた着物の選び方や必要なもの、着物を買う場所や相場などを図や実物を交え紹介し、着物を着たいと考えている人の不安や疑問を解消し、気軽に着ようと思える環境作りを目指しました。



「着る」班では日本の四季に合わせた季節の色・柄やその持つ意味を紹介し、これらを取り入れ各季節の行事をテーマにコーディネートした着物を展示して着る楽しさを伝えました。

今回は来場者に入場時と退場時で着物に対する意識がどう変化したか調査しました。イベント参加後に80人近くの来場者のうち9割以上が「着物の良さが分かり、これから着ようと思う」と答え、参加前は値段や知識の面で抵抗を覚えていた人も大きく意識の変化が見られました。



### 3 プロジェクトを通じて



幾度も議論を重ねて企画を考え、各々の得意分野を生かしたり互いに補い合ったりしてイベントを作り上げていく中で様々な発見をし、学びを深めた1年間でした。

かけた時間と結果が比例するとは限らず、苦い思いもありました。学外で活動する場がなかったことは心残りではありますが、両イベントの成果から私達の活動が人の気持ちを変えるだけの影響力を持っていたことは確かです。プロジェクトは成功したと考えています。



#### 編集後記

学部も学年も異なるメンバーが着物という1つのテーマで繋がり、多くの発見と学びに満ちた1年となりました。このメンバーだったからこそできた活動が沢山あったと思います。着物は知れば知るほど奥が深く、これが魅力だと言い切ることは難しいです。今回私達が発信した魅力は着物の持つ中のいくつかにすぎません。この活動がきっかけで着物に興味を持った人が着物の更なる魅力に気付き、それを広め伝えていったとき、私達のプロジェクトは真の意味で成功したと言えるでしょう。

榎木先生、余語先生をはじめ多くの方々のお力添えをいただき充実した活動が行なえました。本プロジェクトに関わってくださった皆様に心より感謝申し上げます、本当にありがとうございました。

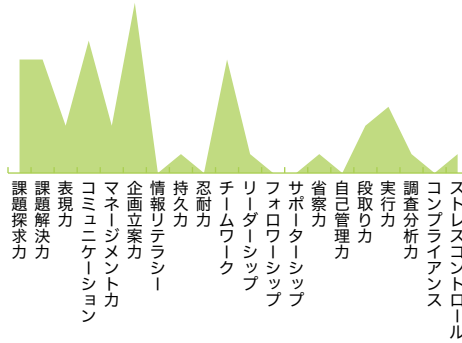
#### プロジェクトメンバー

鍵和田 安奈(神3) 福江 加奈(文2) 西野 朋夏(文2) 合田 瑞穂(文3) 五十嵐 藍(文3) 金澤 朋紀(文3)  
十河 杏子(文3) 藤本 夏実(社会3) 佐藤 美香(社会3) 守家 加奈子(法2) 中山 萌々果(商2)  
潤井 琳乃(商2) 楠 欣士(商3) 吉田 美亜奈(商3) 坂根 萌実(政策3) 桑田 芽依(グローバル地域文化2)  
西川 あかり(グローバル地域文化2) 笹部 彩花(グローバル地域文化3)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

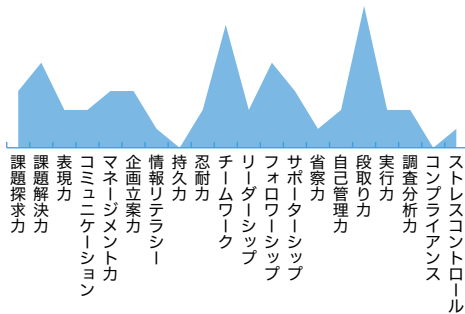
### 授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

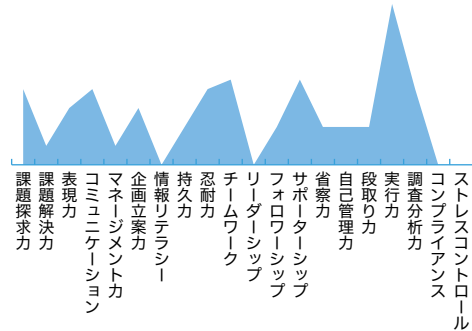


### 春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

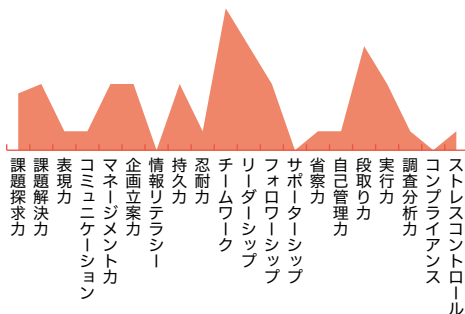


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



### 授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

